

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2025年 6月 13日

千葉市長 殿



提出者

住 所 千葉県千葉市中央区新町1000番地
大成建設株式会社 千葉支店
氏 名 執行役員支店長 廣瀬 淳一
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 043-243-3123

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大成建設株式会社 千葉支店
事業場の所在地	千葉市中央区新町1000番地
計画期間	2025年 4月 1日～2026 3月31日

事業場の所在地	千葉市中央区新町1000番地
計画期間	2025年 4月 1日～2026 3月31日

計画期間	2025年 4月 1日～2026 3月31日
------	------------------------

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	建設業 総合工事業
② 事業の規模	千葉県内の事業 売上高：753億円(2024年度)
③ 従業員数	462名(2025年 5月 1日現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	「別紙-1の通り」

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

「別紙－2の通り」

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】 別紙4－1の通り		
	産業廃棄物の種類	別紙4－1の通り	
	排 出 量	26,517.2 t	t
	(これまでに実施した取組) 「別紙3－3項の通り」		
② 計画	【目標】 別紙4－2の通り		
	産業廃棄物の種類	別紙4－2の通り	
	排 出 量	21,212.0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 「別紙3－3項の継続実施」		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 「別紙3－4項の通り」
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 「別紙3－4項の通り」

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（2024年度）実績】 別紙4－1の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 「別紙3－5の通り」		
③ 計画	【目標】 別紙4－2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 「別紙3－5の通り」		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（2024年度）実績】 別紙4－1の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 同処理は行なっていない。		
② 計画	【目標】 別紙4－2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も同処理は行なわない。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】 別紙4－1の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 同処理は行なっていない。		
② 計画	【目標】 別紙4－2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も同処理は行なわない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】 別紙4－1の通り		
	産業廃棄物の種類	別紙4－1の通り	
	全処理委託量	26,517.2t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	526.9t	t
	再生利用業者への処理委託量	25,115.5t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 「別紙3－6項の通り」		

(第5面)

② 計画	【目標】 別紙4－2の通り		
	産業廃棄物の種類	別紙4－2の通り	
	全処理委託量	21,212.0 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	421.0 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	20,092.0 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 「別紙3－6項の継続実施」		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

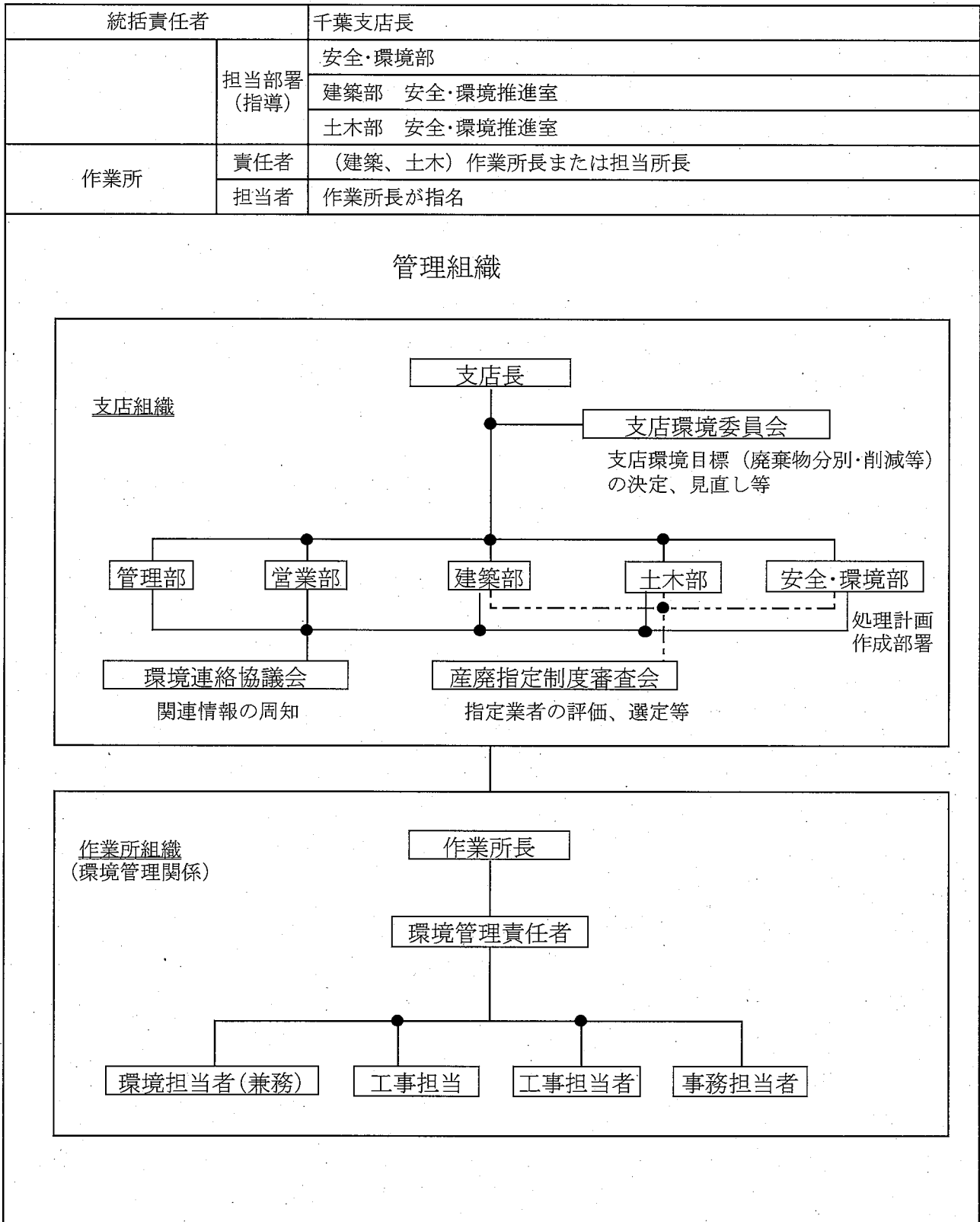
別紙-1



別紙- 2

管理体制図

(1) 当事業における責任及び管理組織図



取組みの現状(継続しての実施事項)

1. 管理体制等の強化

環境マネジメントシステムに基づき、下記事項を行なっている。

- 1) 建設廃棄物の分別・リサイクル等に関する環境目標の設定
- 2) 産業廃棄物の処理に関する手順の策定
- 3) 作業所毎の法規制等チェックシートによる関係法令の遵守
- 4) 計画的な内部環境監査及び環境パトロールの実施
- 5) 外部環境監査による指摘と是正（再発防止含む）
- 6) 年度ごとの見直しを行い、継続的な改善を図る
- 7) 環境負荷低減活動の展開
- 8) 協力会で行なう環境パトロールによる指摘業者への指導
- 9) 職長会による分別指導

2. 教育

環境マネジメントシステムに基づき、下記事項を行なっている。

1) 社員教育

①環境問題の概要

②環境方針、EMSを遵守することの重要性

③各業務が実際に又は、潜在的に持つ著しい環境への影響、環境管理改善の便益

④環境方針、環境目標、EMS活動の目的・目標を達成するための役割と責任

⑤規定された環境に関する標準、要領・手順を逸脱した場合に予想される結果

⑥廃掃法はじめ、関連法改正を含めた最新環境情報の伝達

※全従業員を対象に定期的に集合教育（OFF. J. T）を行う。受講できなかった者に対しては内勤者は室長、作業所は作業所長がO. J. Tを実施する。

2) 専門工事業者教育

①作業所毎、新規入場者教育時に作業所環境目標、実施手順に係る教育を実施。

②作業所へ作業員を送出す際に当社作成の環境教育資料を基に環境教育を実施。

③各種大会、講習会時に3R活動を含めた環境教育を実施。

④協力会組織の環境委員会活動により専門工事業者会員の環境意識の向上を図る。

3. 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

施工計画時において下記事項を検討し、実施可能な項目を採用している。

- ・建設資材のプレキャスト化等による廃材発生の削減
- ・搬入資機材の梱包材の削減
- ・工法変更による廃材の抑制
- ・資材の転用　その他

4. 産業廃棄物の分別に関する事項

当社の副産物処理要領書に則り、作業所において分別計画を立て実施する。

計画の策定に当っては、地域の産業廃棄物中間処理施設、リサイクル施設等の分別品目の受入れ条件を十分考慮する。

5. 産業廃棄物の再生利用に関する事項

建設リサイクル法等関係法令を遵守し、作業所毎に再生資源利用(促進)計画を策定し、実施の記録を保管する。

グリーン購入標準、グリーン調達ガイドラインに基づく環境配慮品の採用。

6. 産業廃棄物の処理に関する事項

廃掃法及び当社の副産物処理要領書に則り、保管基準、処理基準、委託基準を遵守する。特に注力する事項を下記に示す。

- 1) 当社書式による委託契約書の作成・保管。
- 2) 電子マニフェスト化を積極的に展開し普及率を把握（毎月）し向上を図る。
- 3) 紙マニフェストの交付及び照合・保管。

紙マニフェストは、建設六団体副産物対策協議会発行のものを使用する。

- 4) 支店、本社における作業所の廃棄物処理状況の把握。

作業所は「環境データ管理システム（E-DAM）」によりその都度入力する。

支店、本社は本社サーバーに集積された各作業所からのデータ（E-DAM）を閲覧し、指導する。

- 5) 指定業者制度(混合廃棄、建設汚泥)を採用し、支店担当者がチェックシートにより毎年指定業者処理場を評価し、審査会に諮り審議することよりリスクの軽減を図っている。

別紙4-1
産業廃棄物の処理の委託に関する事項
【前年度（2024年度）実績】

単位：（トン）

【前年度（2024年度）実績】																				
副産物種類	計画・目標 数値	①	②' -a	②' -b	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩' -a	⑩' -b	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	有価・広域認定物 売却量
		排出量	自ら処理 (マニフェストあり)	自ら処理 (マニフェストなし)	自ら直接再生利用した量 (②-a+②-b)	自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	自ら中間処理した量	④のうち熱回収を行った量	自ら中間処理した後の残さ量	自ら中間処理により減量した量	自ら中間処理した後に再生利用した量	自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	中間処理量	最終処分量	『直接及び』自ら中間処理した後処理業者への委託量 (⑩-a+⑩-b)	⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	⑩のうち再生利用業者への処理委託量	⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量	⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	
廃棄物																				
コンクリートがら		16,708.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16,708.6	0.0	16,708.6	80.8	16,708.6	0.0	0.0	
アスファルト・コンクリートがら		2,442.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2,442.9	0.0	2,442.9	131.5	2,442.9	0.0	0.0	
その他がれき類		774.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	774.4	0.0	774.4	171.2	0.0	0.0	6.4	
廃プラスチック類		72.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	72.5	0.0	72.5	20.2	0.0	0.0	0.0	
ガラスくず及び陶磁器くず		113.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	113.4	0.0	113.4	19.3	0.0	0.0	0.0	
金属くず		115.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	115.0	0.0	115.0	5.0	115.0	0.0	0.0	
汚泥		5,469.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5,469.6	0.0	5,469.6	0.0	5,469.6	0.0	0.0	
泥水		73.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	73.0	0.0	73.0	0.0	73.0	0.0	0.0	
紙くず		14.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.9	0.0	14.9	2.3	14.9	0.0	0.0	
木くず		291.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	291.5	0.0	291.5	24.2	291.5	0.0	0.0	
廃石膏ボード		209.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	202.4	6.9	209.3	29.9	0.0	0.0	0.0	
鋳さい		19.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
廃油		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	
水銀使用産廃(蛍光灯)		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	
混廃(安定型のみ)		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	
混廃(管理型含む)		203.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	203.9	0.0	203.9	41.7	0.0	0.0	0.0	
石綿含有産廃(ガラス陶磁器くず)		6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
石綿含有産廃(廃プラ)		2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
合計	0.0	26,517.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26,483.0	34.2	26,517.2	526.9	25,115.5	0.0	6.4	

【目標】

副産物種類	計画・目標 数値	① 排出量	②' -a 自ら処理 (マフレストあり)	②' -b 自ら処理 (マフレストなし)	② 自ら直接再生 利用した量 (②-a+②-b)	③ 自ら直接埋 立処分又は 海洋投入処 分した量	④ 自ら中間処 理した量	⑤ ④のうち熱 回収を行っ た量	⑥ 自ら中間処 理した後の 残さ量	⑦ 自ら中間処 理により減 量した量	⑧ 自ら中間処 理した後 に再生利用 した量	⑨ 自ら中間処 理した後自 立処分又は 海洋投入処 分した量	⑩' -a 中間処理量	⑩' -b 最終処分量	⑩ 『直接及 び』自ら中 間処理した 後処理業者 への委託量 (⑩-a+⑩-b)	⑪ ⑩のうち優 良認定処理 業者への処 理委託量	⑫ ⑩のうち再 生利用業者 への処理委 託量	⑬ ⑩のうち熱 回収認定業 者への処理 委託量	⑭ ⑩のうち熱 回収認定業 者以外の熱 回収を行う 業者への処 理委託量	有価・広 域認定物 売却量
廃棄物																				
コンクリートがら		13,366.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13,366.4	0.0	13,366.4	64.6	13,366.9	0.0	0.0	
アスファルト・コンクリートがら		1,954.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,954.3	0.0	1,954.3	105.2	1,954.3	0.0	0.0	
その他がれき類		619.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	619.5	0.0	619.5	137.0	0.0	0.0	0.0	
廃プラスチック類		58.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	58.0	0.0	58.0	16.2	0.0	0.0	0.0	
ガラスくず及び陶磁器くず		90.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.7	0.0	90.7	15.4	0.0	0.0	0.0	
金属くず		92.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	92.0	4.0	92.0	0.0	0.0	
汚泥		4,375.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4,375.7	0.0	4,375.7	0.0	4,375.7	0.0	0.0	
泥水		58.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	58.0	0.0	58.0	0.0	58.0	0.0	0.0	
紙くず		11.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.9	0.0	11.9	1.8	11.9	0.0	0.0	
木くず		233.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	233.2	0.0	233.2	19.4	233.2	0.0	0.0	
廃石膏ボード		167.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	161.9	5.5	167.4	23.7	0.0	0.0	0.0	
鋳さい		15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
廃油		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	
水銀使用産廃(蛍光灯)		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	
混廃(安定型のみ)		0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	
混廃(管理型含む)		163.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	163.0	0.0	163.0	33.0	0.0	0.0	0.0	
石綿含有産廃(ガラス陶磁器くず)		4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
石綿含有産廃(廃プラ)		1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
合計	0.0	21,212.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21,185.5	27.0	21,212.0	421.0	20,092.0	0.0	0.0	

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

2025年 6月 13日

千葉市長 殿



提出者
住所 千葉県千葉市中央区新町1000番地
大成建設株式会社 千葉支店
氏名 執行役員支店長 廣瀬 淳一
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 043-243-3123

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、2024年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	大成建設株式会社 千葉支店
事業場の所在地	千葉県千葉市中央区新町1000番地
事業の種類	建設業 総合工事業
産業廃棄物処理計画における計画期間	2024年 4月 1日～2025年 3月31日

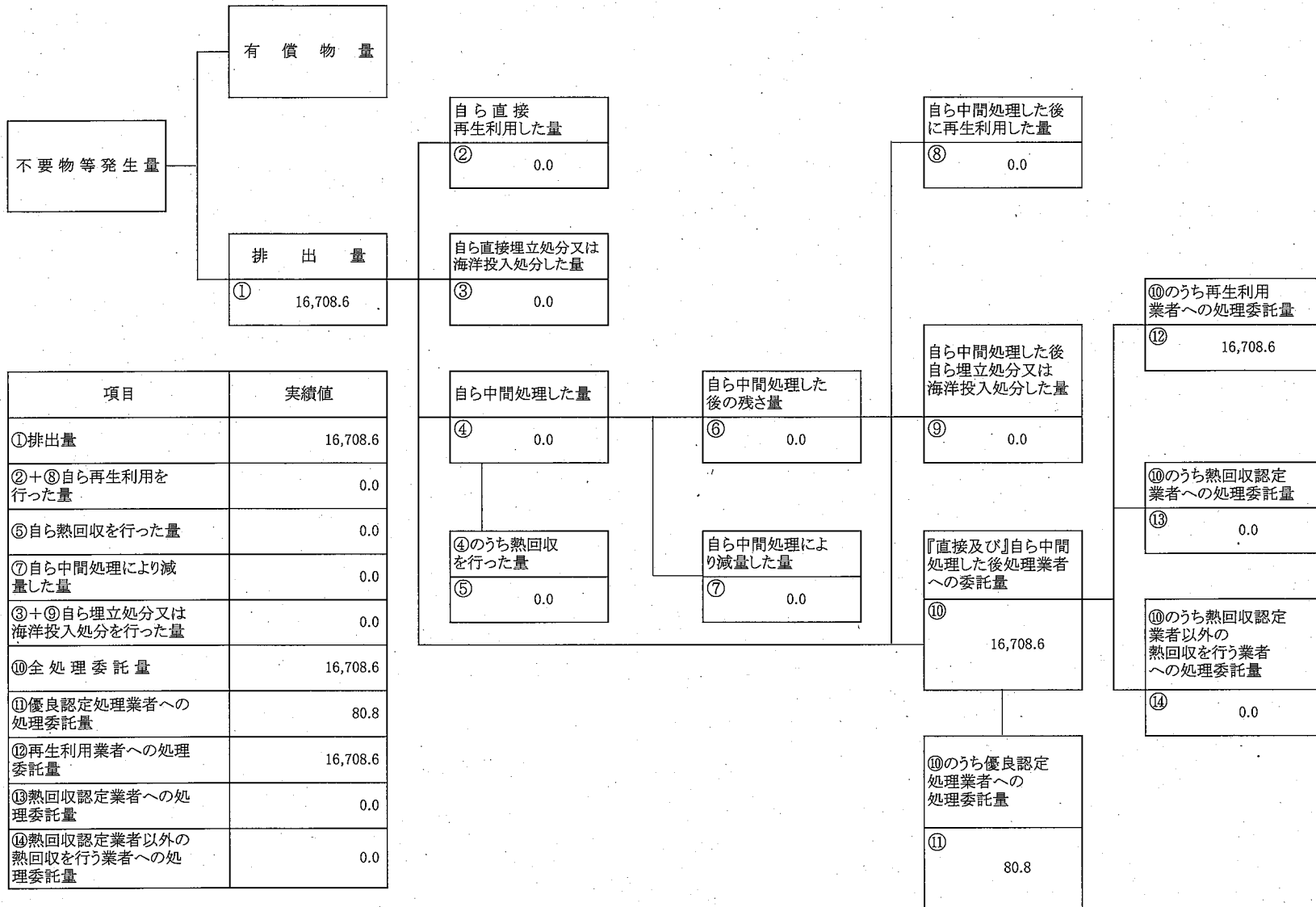
産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	17,420.0t	全処理委託量	17,420.0t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への処理委託量	780.0t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	再生利用業者への処理委託量	15,588.0t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者への処理委託量	0t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t

※事務処理欄

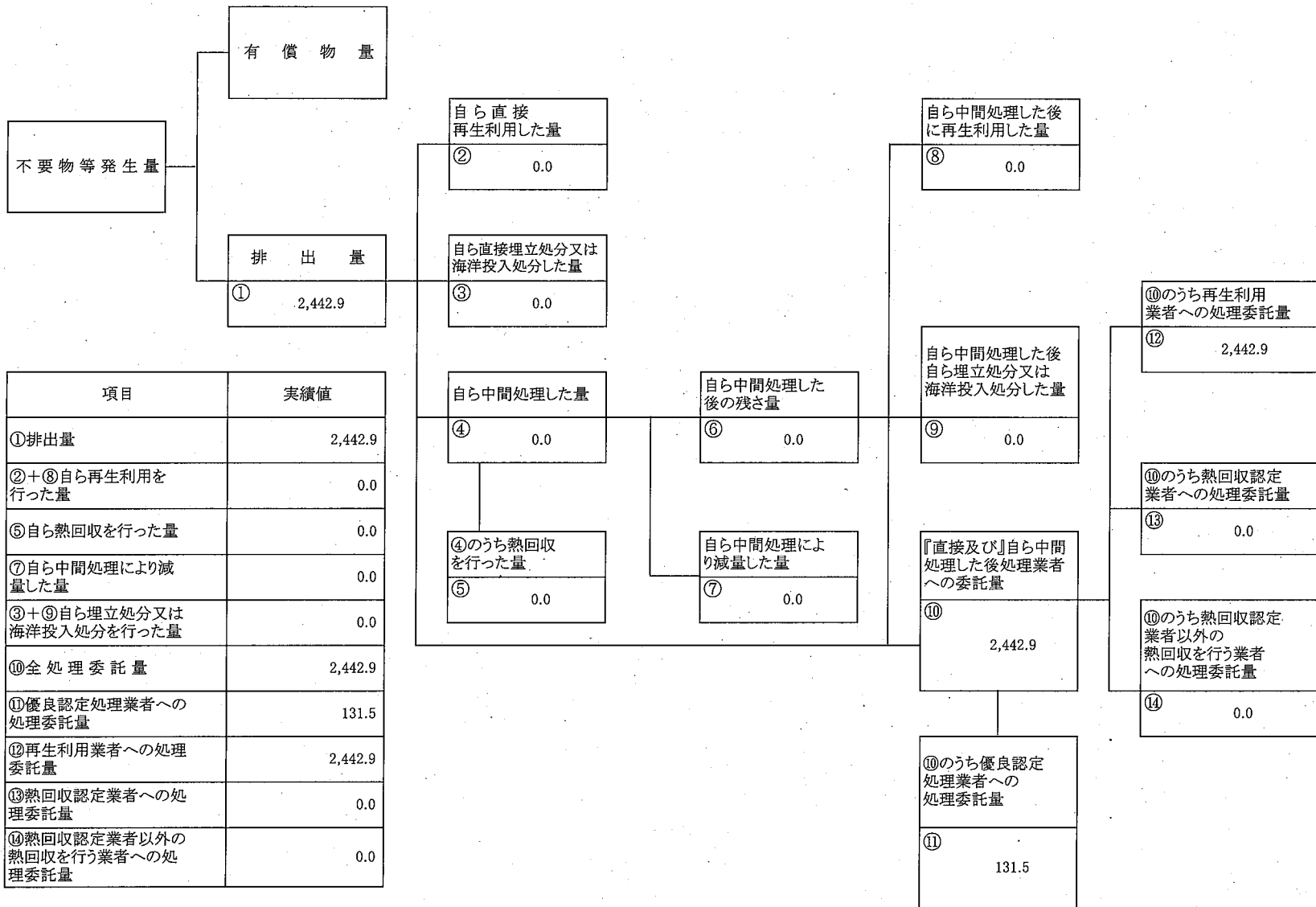
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: コンクリートがら)



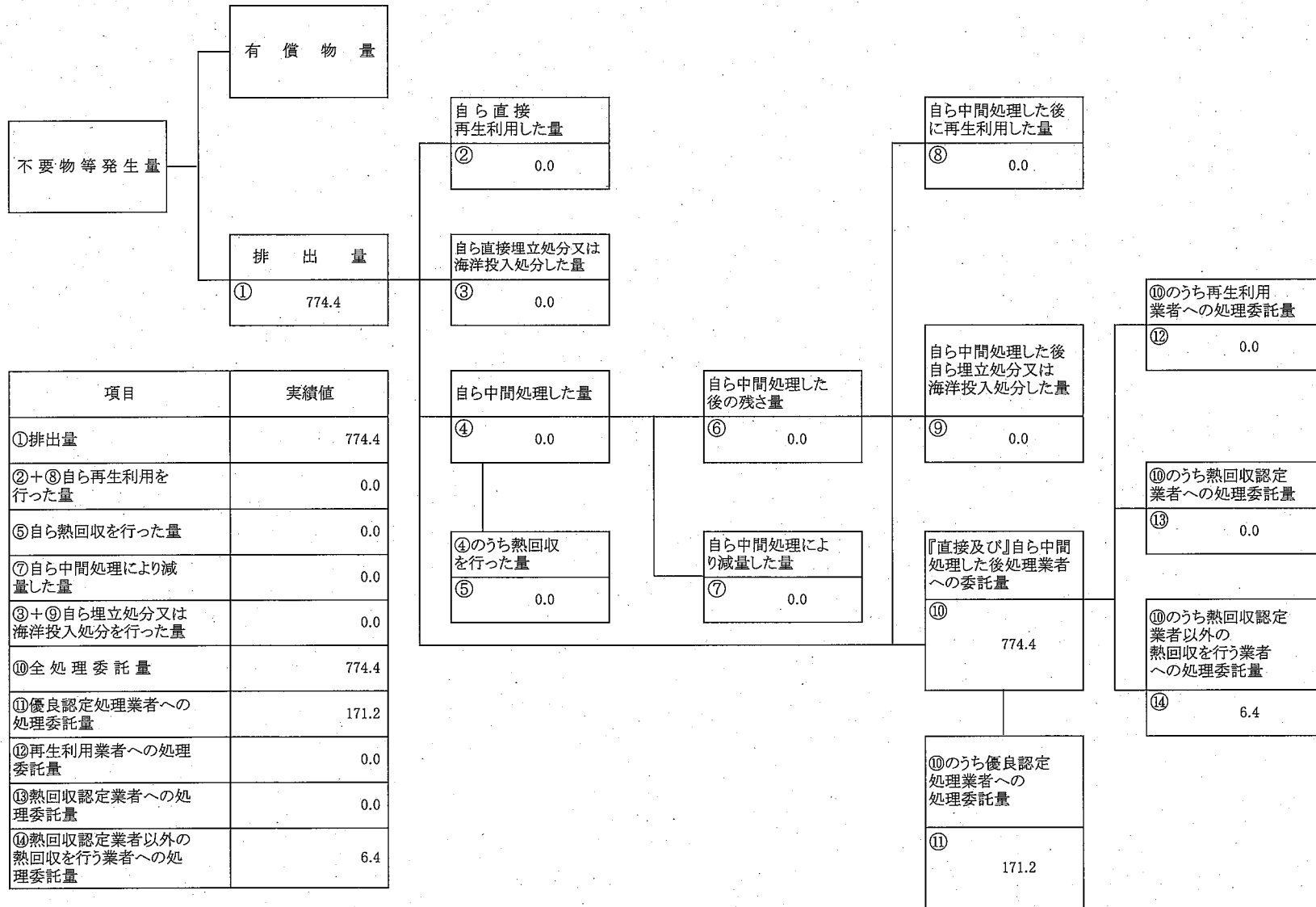
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: アスファルト・コンクリートがら)



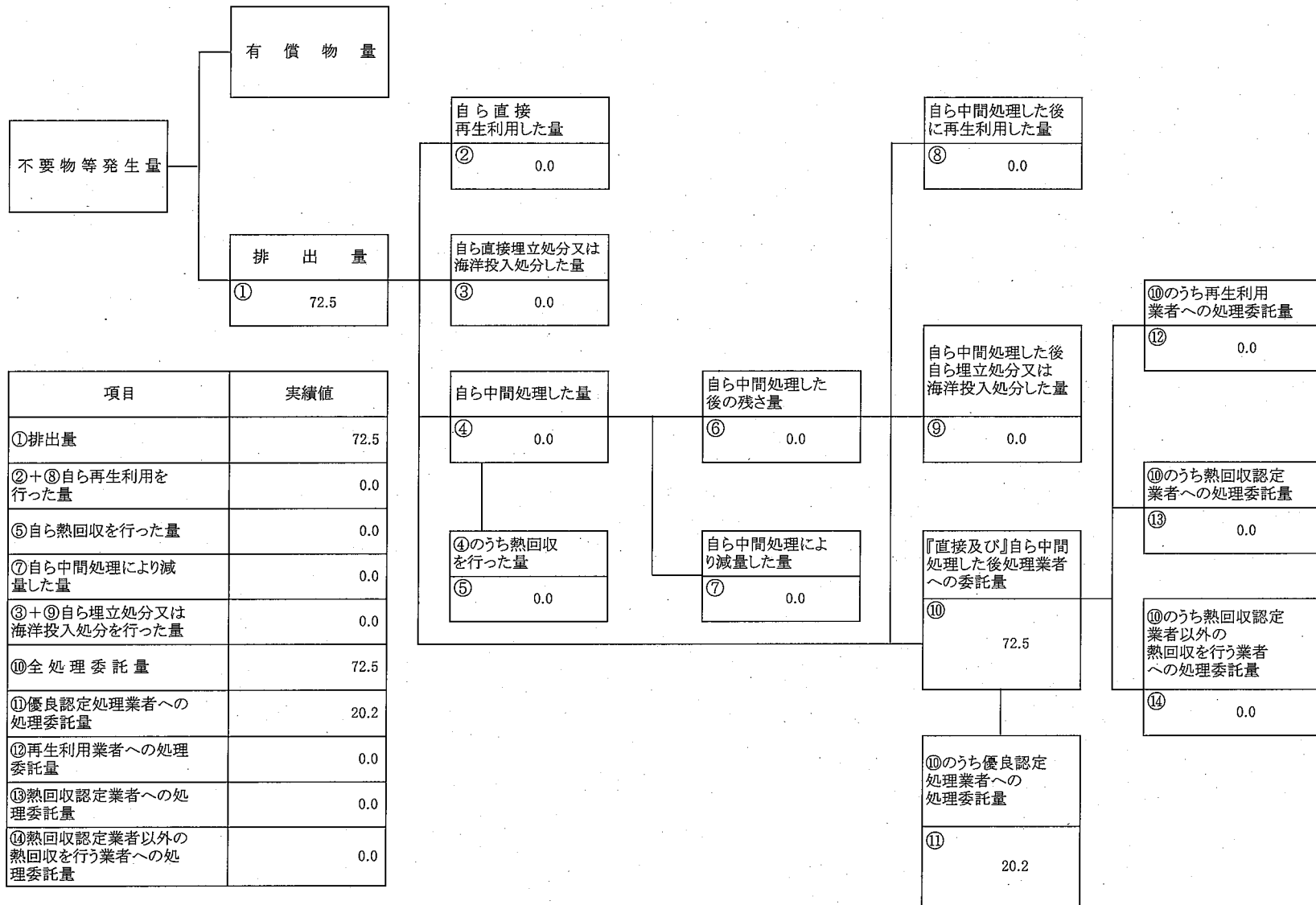
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: その他がれき類)



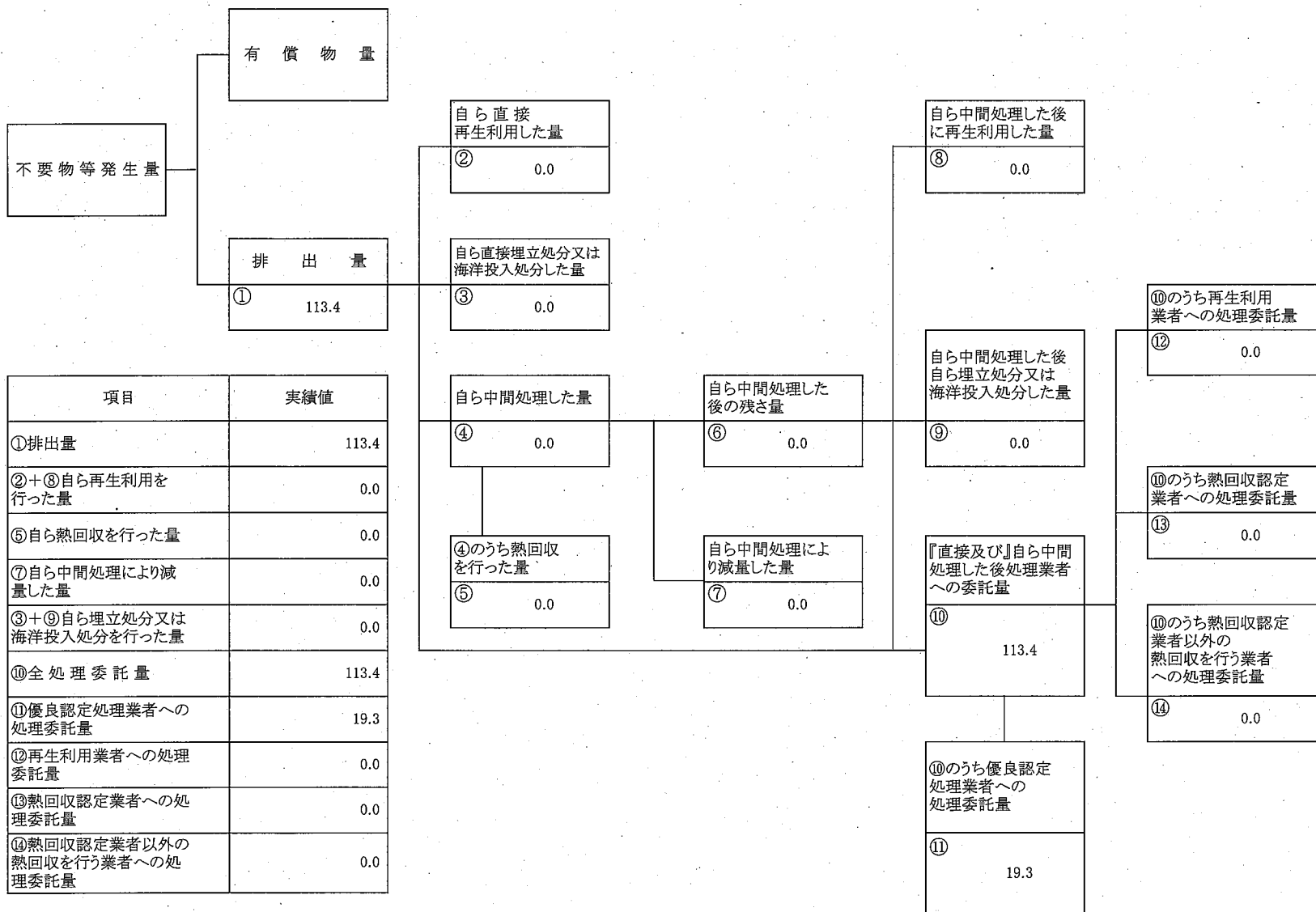
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃プラスチック類)



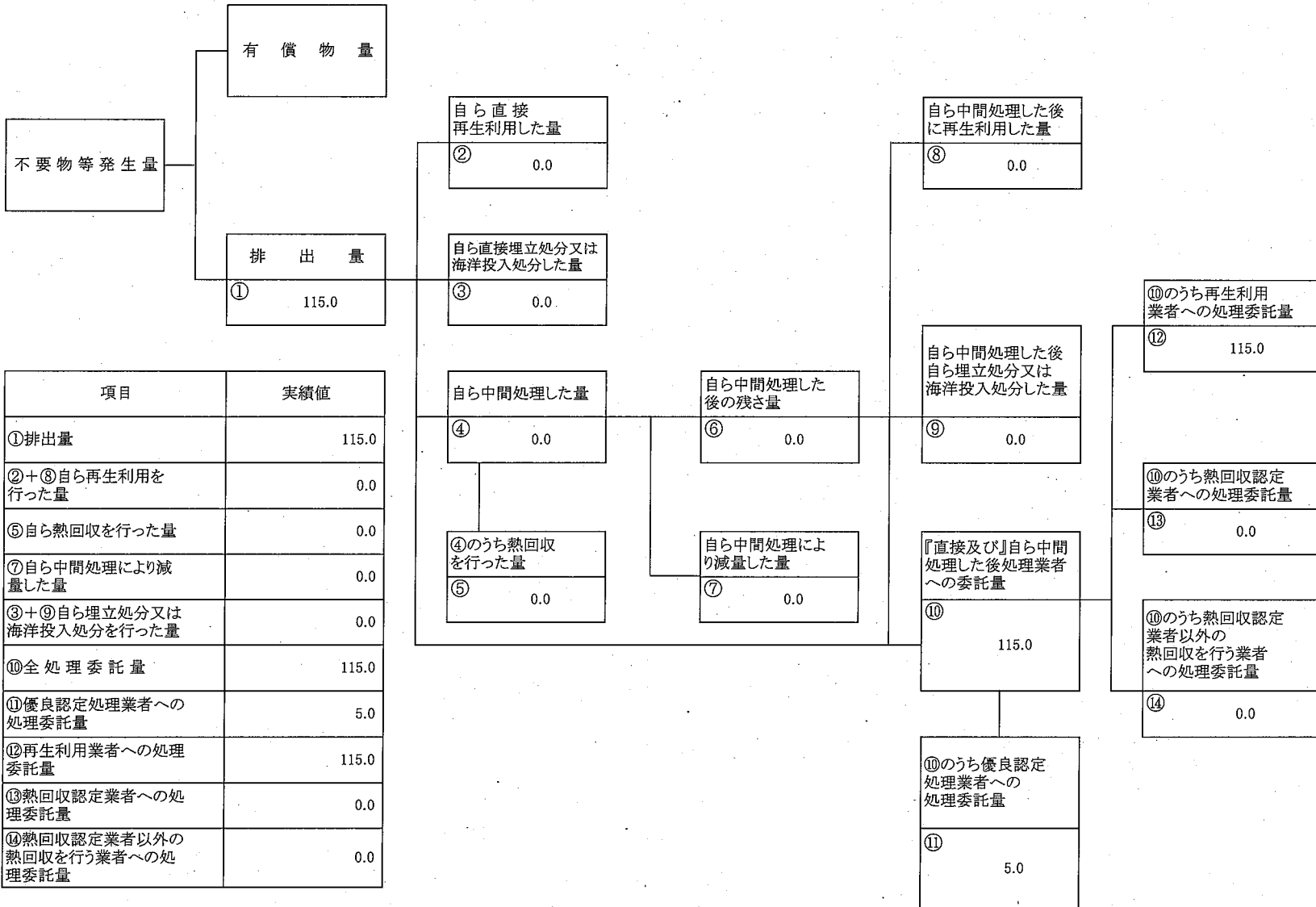
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ガラスくず及び陶磁器くず)



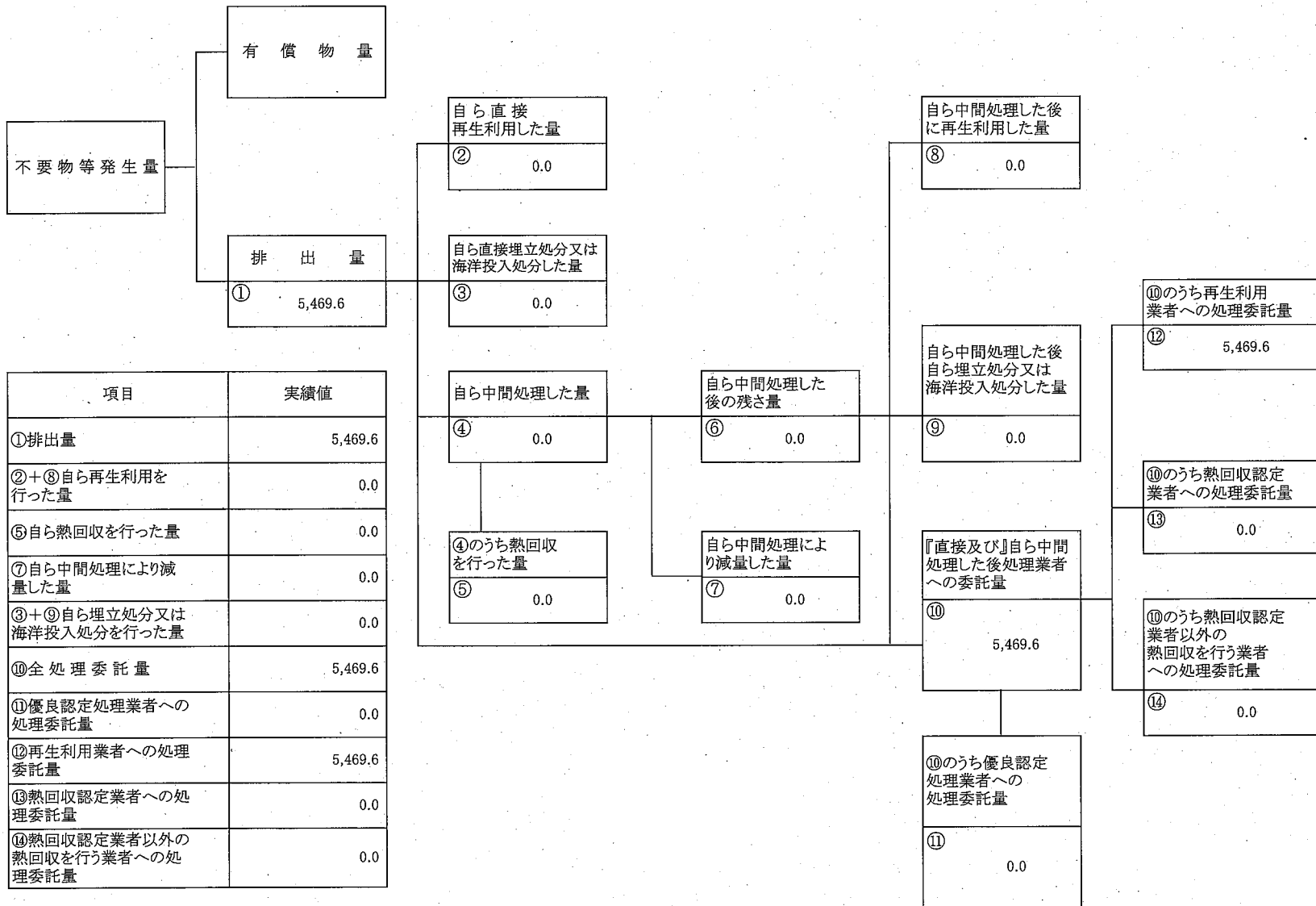
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 金属くず)



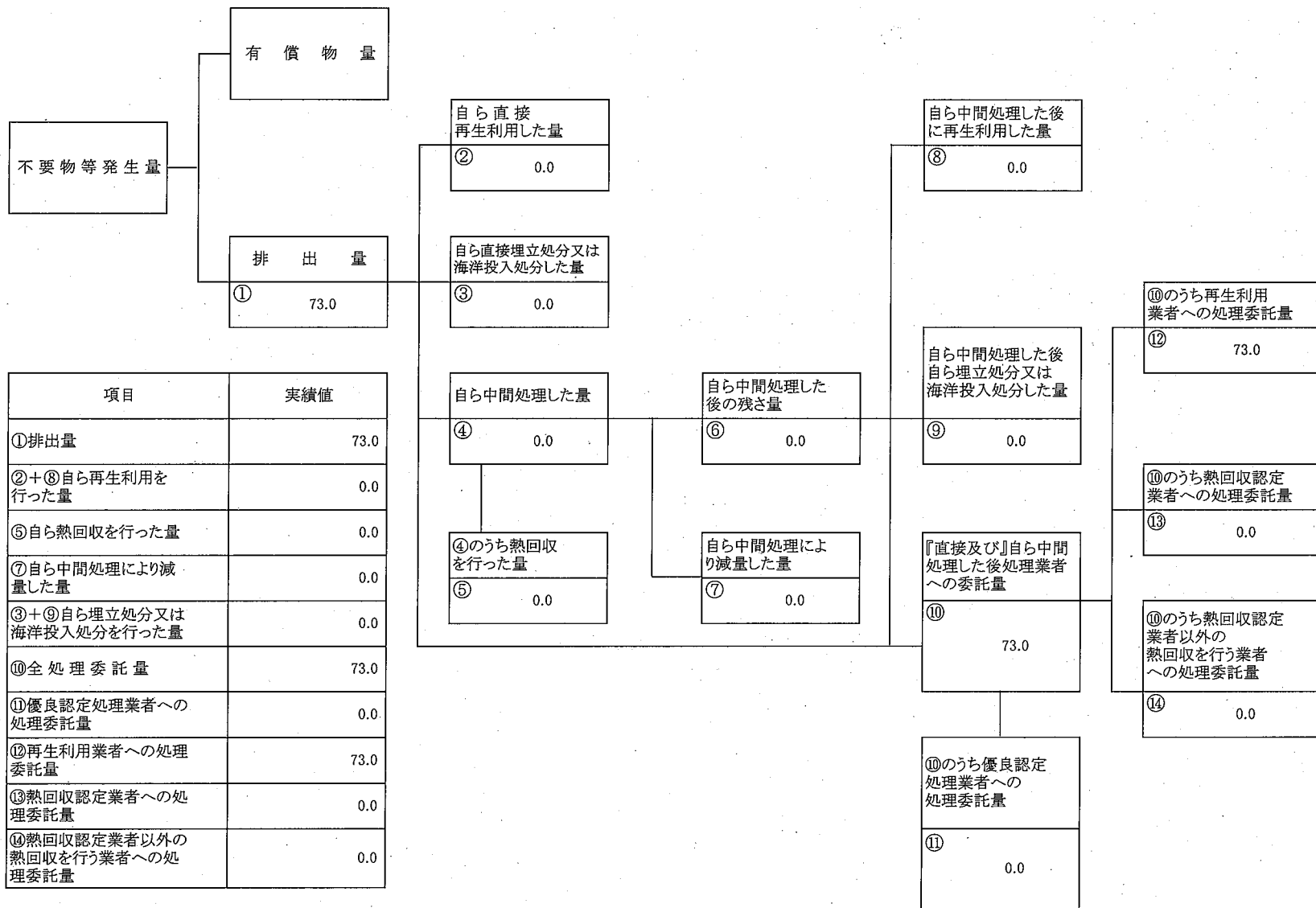
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 汚泥)



計画の実施状況

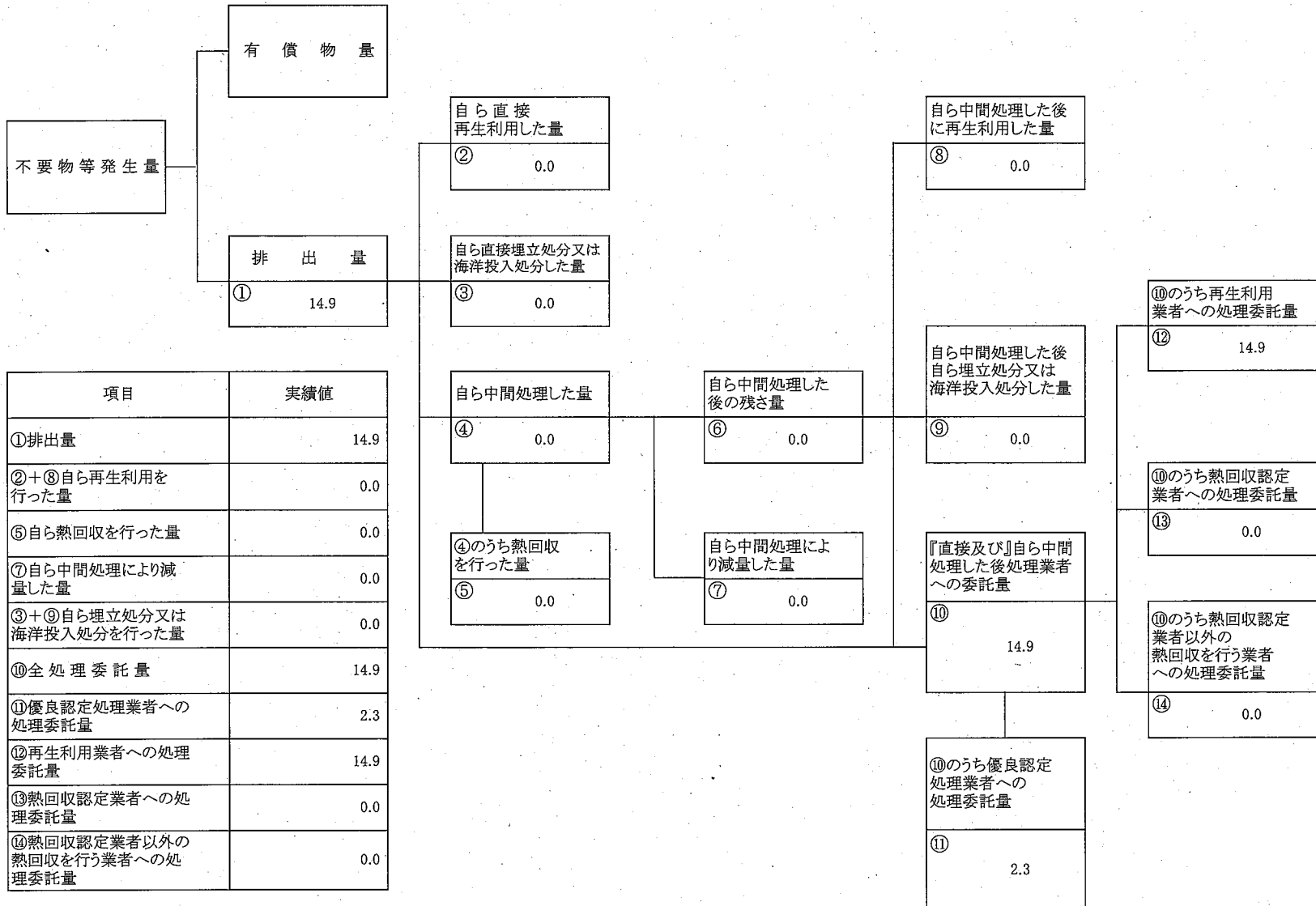
(産業廃棄物の種類: 泥水)



計画の実施状況

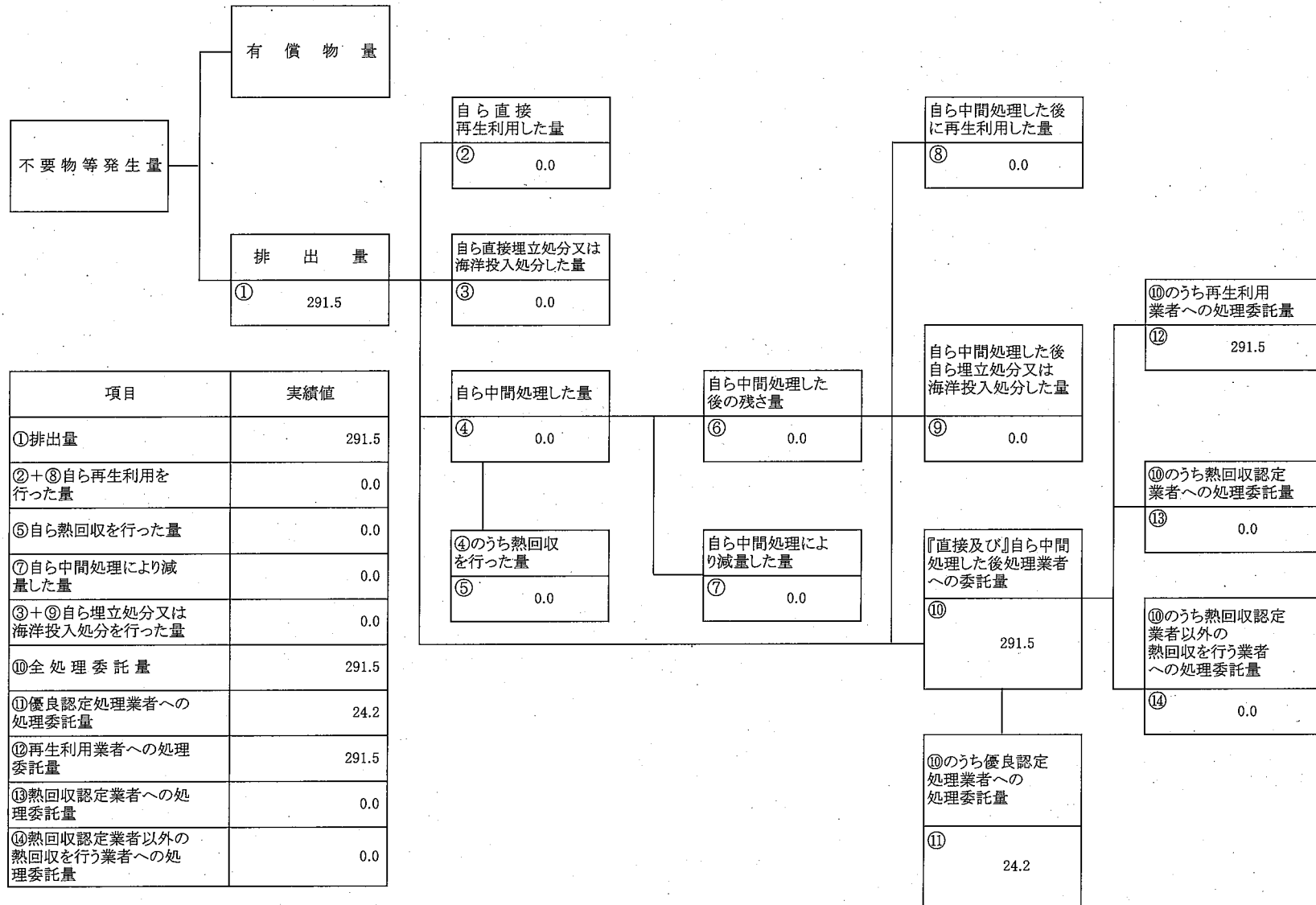
(産業廃棄物の種類: 紙くず)

)



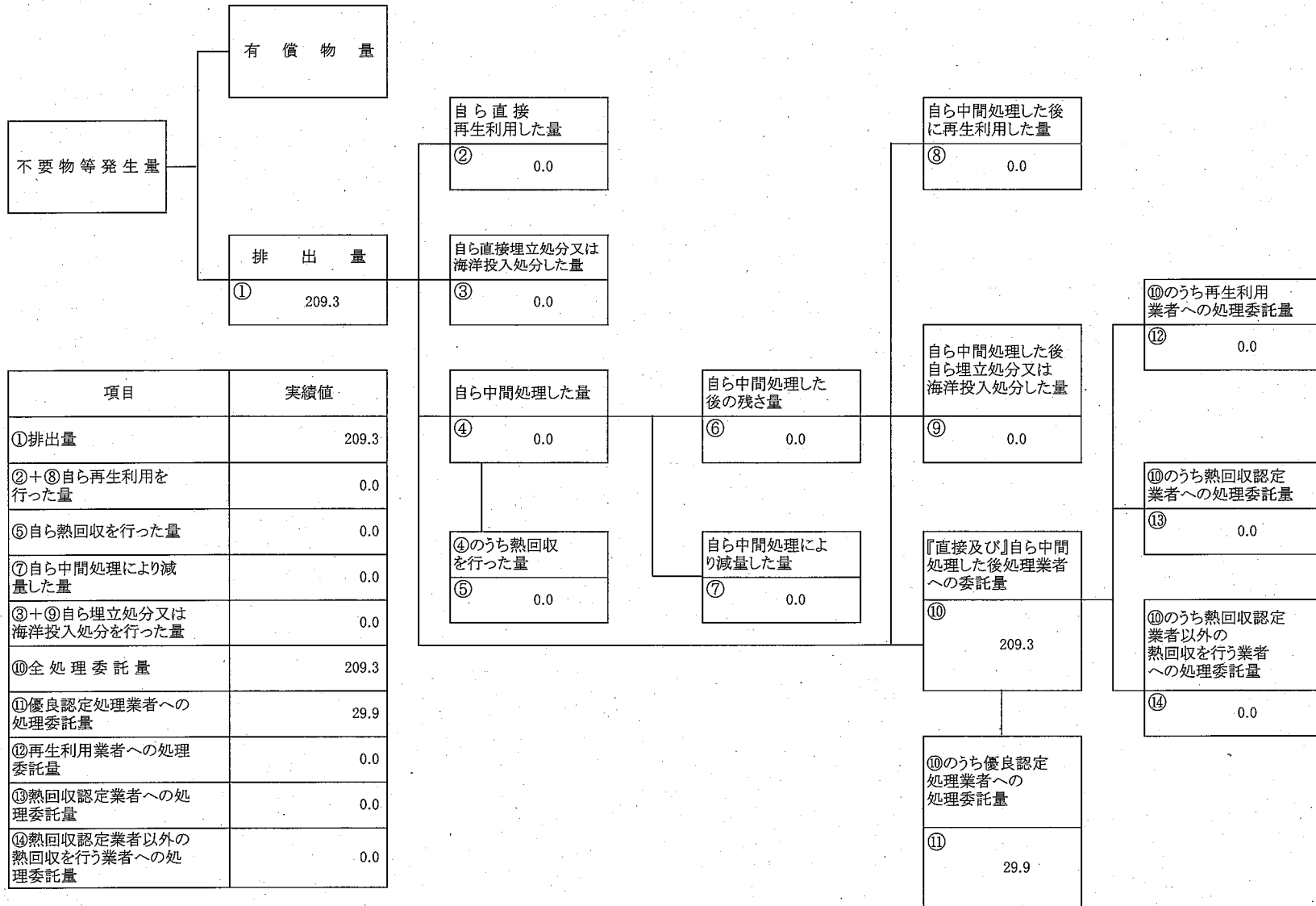
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 木くず)



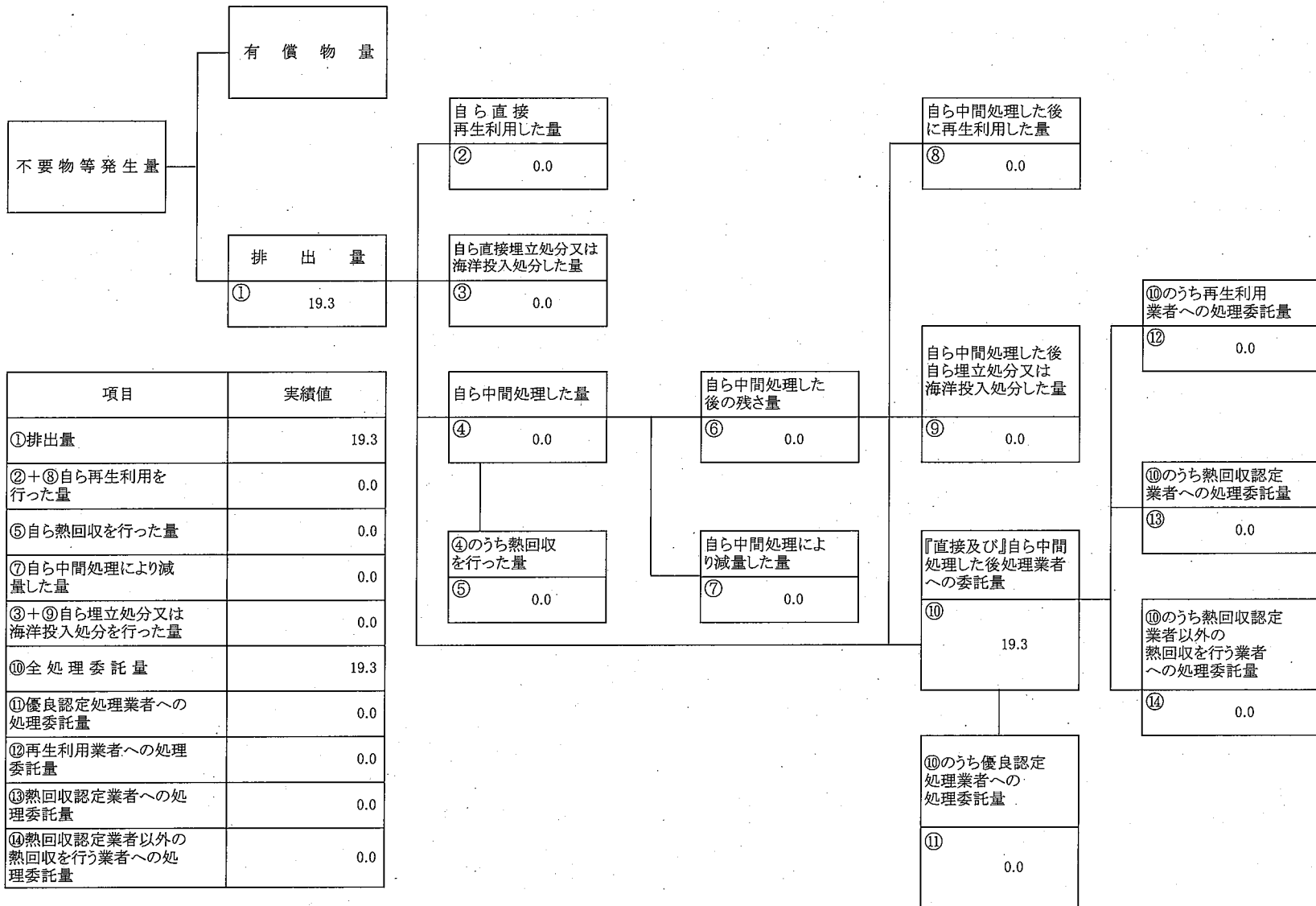
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃石膏ボード)



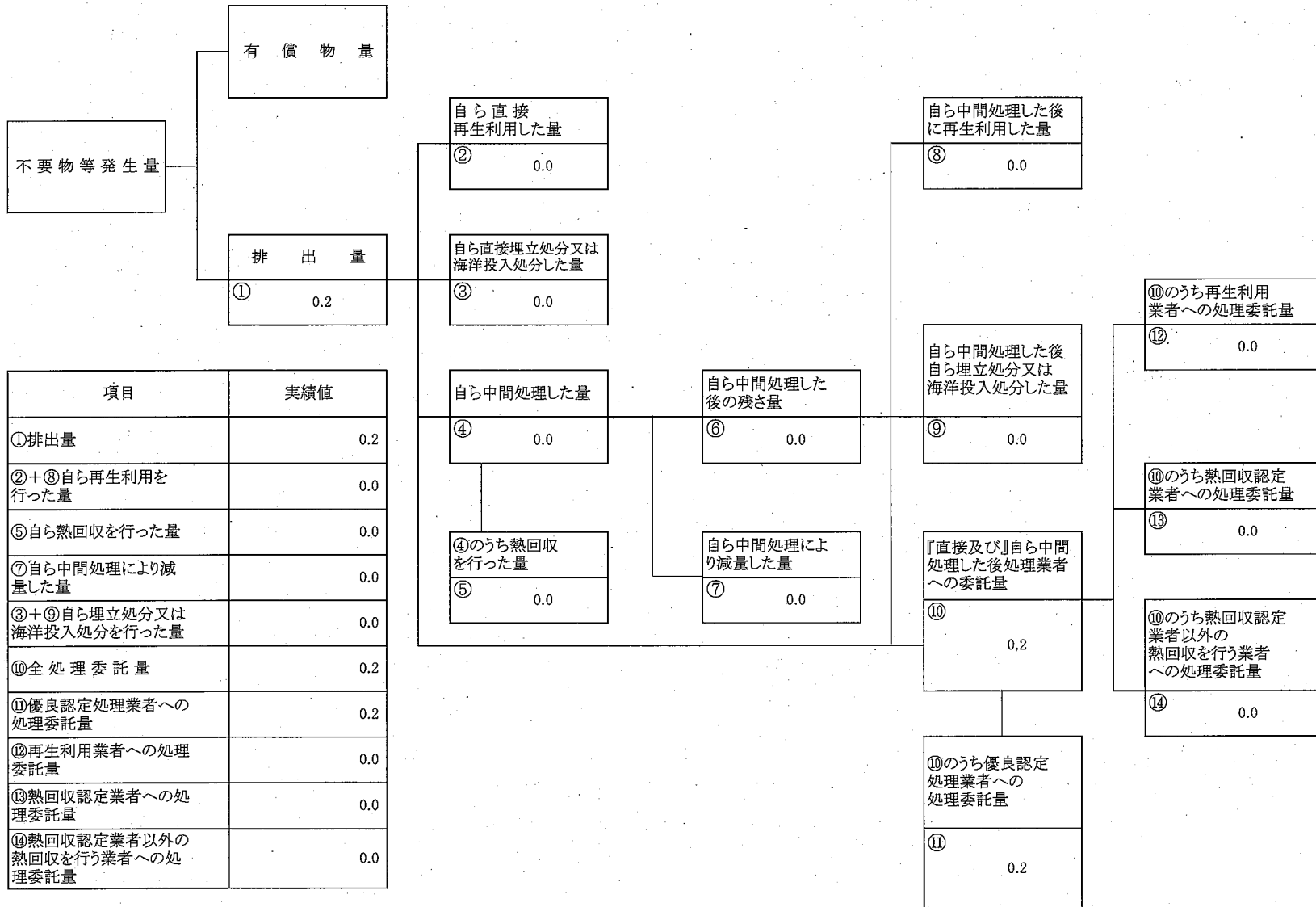
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 鋳さい)



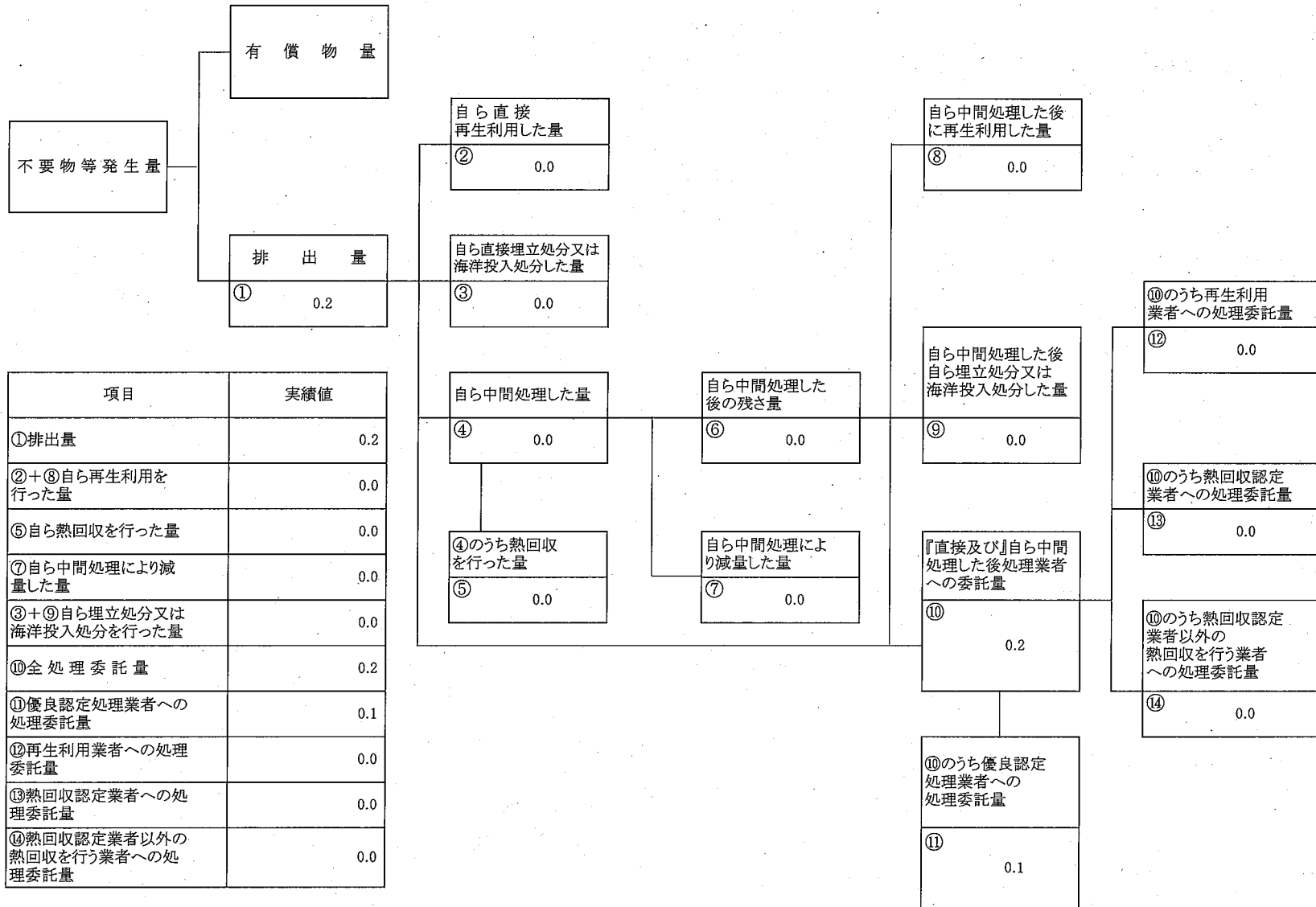
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃油)



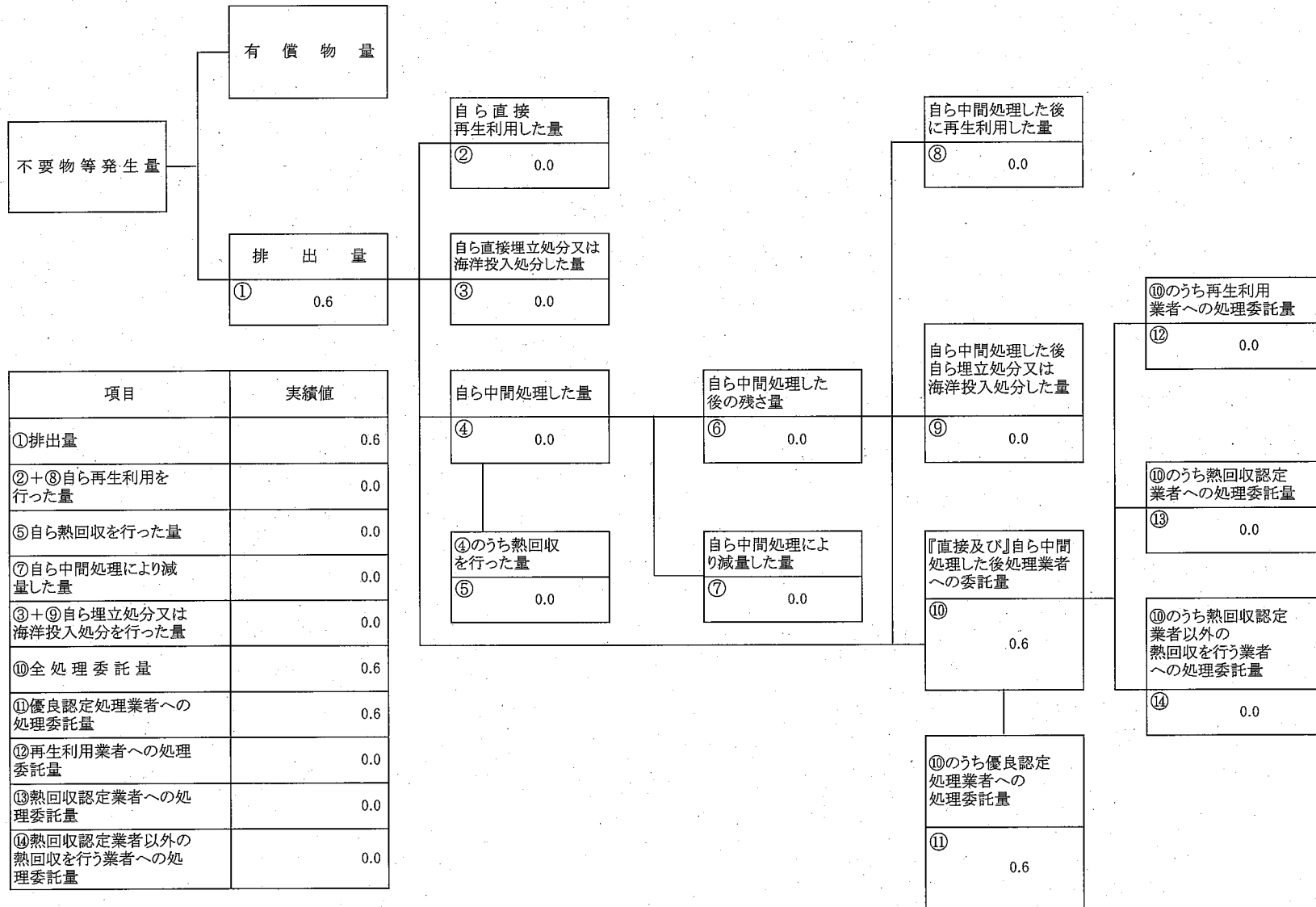
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 水銀使用産廃(蛍光灯))



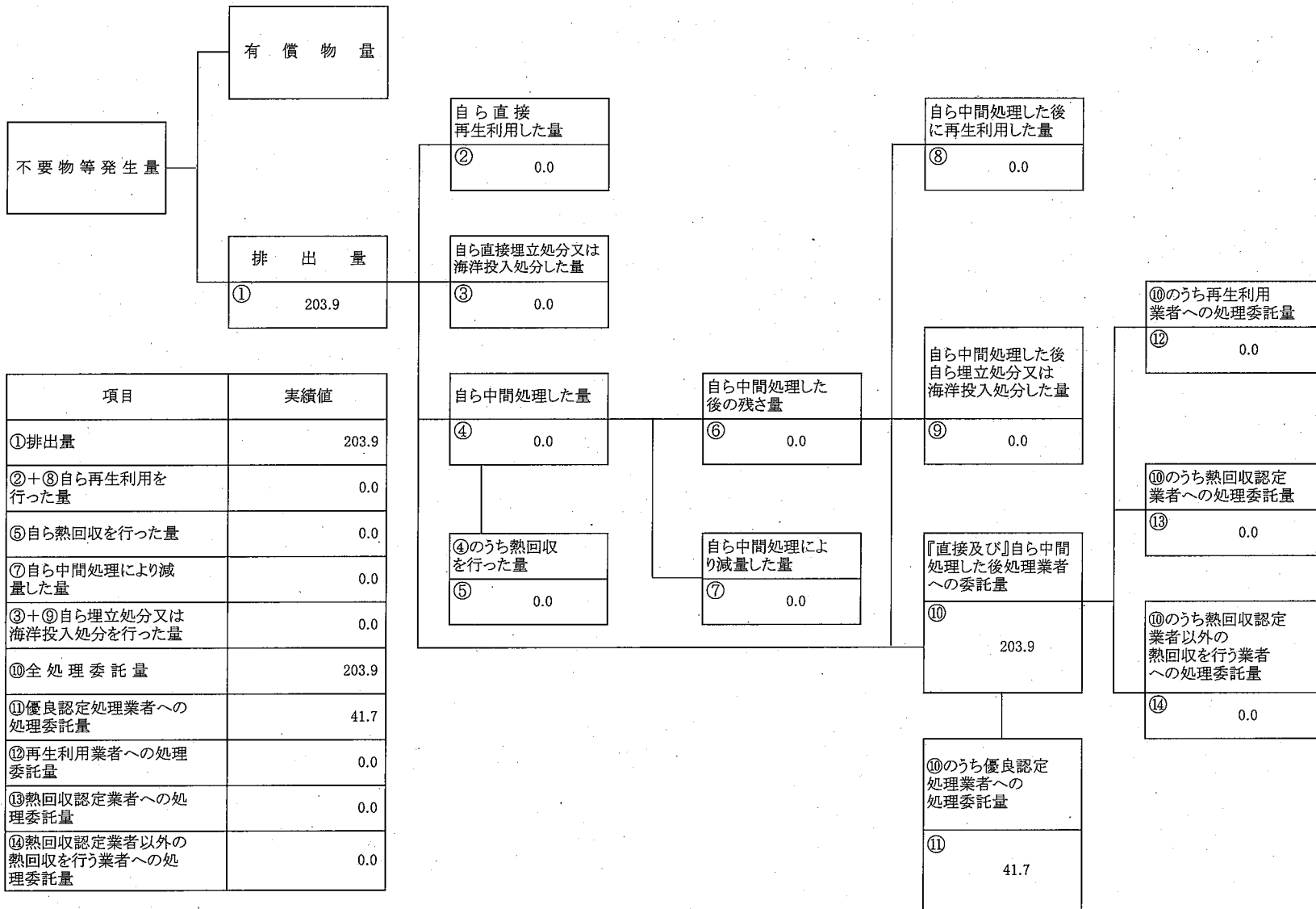
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 混廃(安定型のみ))



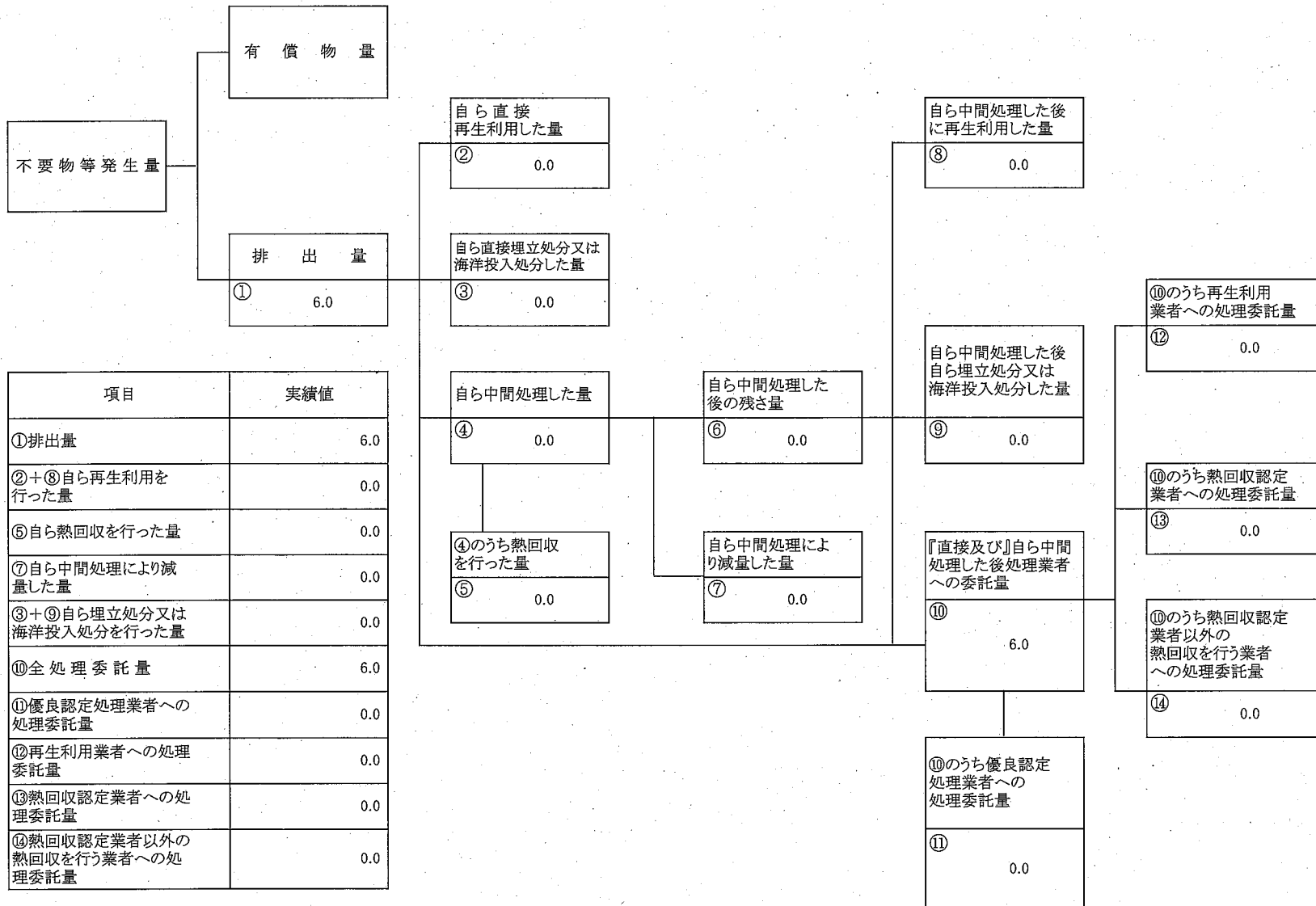
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 混廃(管理型含む))



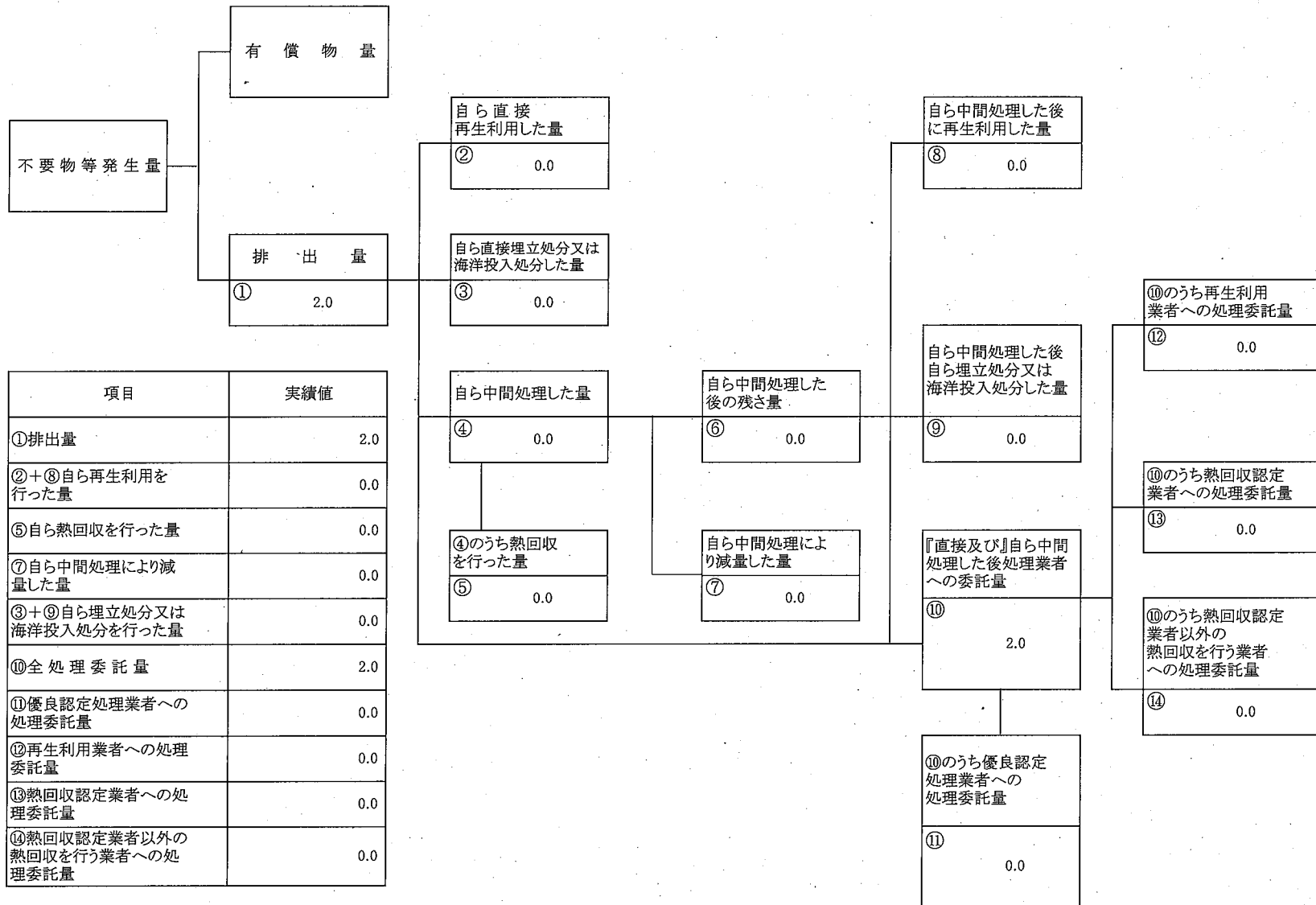
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 石綿含有産廃(ガラス陶磁器くず))



計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 石綿含有産廃(廃プラ))



(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

2025 年 6 月 13 日

千葉市長

殿

提出者

住 所 千葉市中央区新町1000番地

大成建設株式会社 千葉支店

氏 名 執行役員支店長 廣瀬 淳一

(法人にあつては、名称及び代表者氏名)

電話番号 043-243-3123



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、
理産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

2024 年度の特別管

事業場の名称	大成建設株式会社 千葉支店
事業場の所在地	千葉市中央区新町1000番地
事業の種類	建設業 総合工事業
特別管理産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	2024年 4月 1日～2025年 3月31日

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排 出 量	10 t	全 処 理 委 託 量	10 t
自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	10 t
自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t
自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t
自ら埋立処分 を 行 う 特別管理産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t

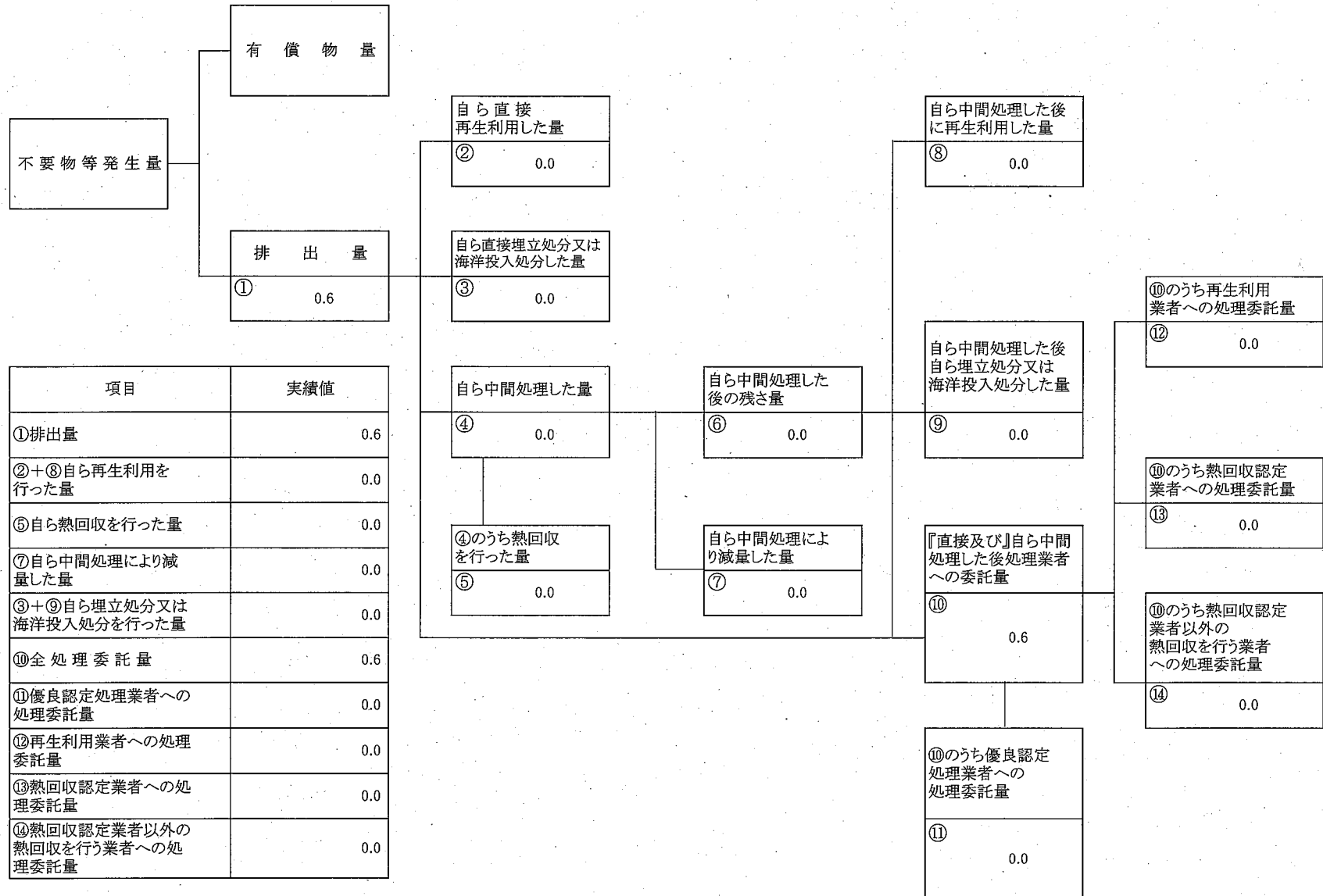
電子情報処理組織の使用に関する事項

特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前々年度 t
	前年度 t
(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)	

※事務処理欄

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃石綿(特))



(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により特別管理産業実績値を廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあつては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。